



IRP's Build Back Better 事例（2011年、日本） 男女共同参画の視点からのコミュニティ活性化

～仮設住宅自治会の女性リーダーによる活躍～ （岩手県宮古市）

2015年7月2日

☆取組の背景・経緯☆

- ・地域における政策・方針決定過程への女性の参画の重要性は叫ばれて久しいですが、現在でも、自治会長に占める女性の割合は約4%となっています（2015年現在、内閣府調べ）。
- ・宮古市の住宅街に隣接する「和見仮設住宅」（16世帯）と「西公園仮設住宅」（20世帯）は、市街地にありながら、入居当初、他の大きな仮設住宅のような支援は来なかったことから、生活の様々な場面で住民同士で共助することが必要でした。しかし、一人暮らしの高齢者が多い「和見仮設住宅」には談話室があったが、子育て世代が多い「西公園仮設住宅」にはありませんでした。
- ・その後、2つの仮設住宅の住民集会に宮古市社会福祉協議会や仮設住宅を支援する民間団体が参加し、自治会の設立を働きかけた。この結果、2011年12月、2つの仮設住宅を合わせた自治会が設置されることになり、西公園仮設住宅に住む30代の女性が自治会長に積極的に立候補し、仮設住宅の生活を住民と共に快適にしようと取組を始めました。

☆取組の概要☆

- ・自治会が発足した当初、談話室の利用は少なく、いつも同じ利用者であったことから、まずは、住民の交流を活発にするために民間支援団体の協力を得て、様々な交流イベントを企画・開催した。例えば、2012年3月には「ひなまつり」、同年4月には仮設住宅の建つ西公園内での「お花見会」、夏には、子どもたちを集めた「流しそうめん」や地域の町内会とも交流しながらの「盆踊り」などのイベントなどを実施。
- ・特に住民が、料理や飲み物を持ち寄って食事をしながら交流を行う「夜の食事会」は好評を博しました。当初は、日中に仕事を行っている住民と交流するための企画だったが、開催場所の談話室に入りきれないほど好評を博したため、現在は、月1回、昼・夜の2部構成とし、昼は高齢の方、夜は若い世代を中心に継続しています。

☆工夫した点・特色☆

- ・当初、自治会の設置や女性が自治会長を務めることについて不安視する向きもあったが、立候補した女性が決意と工夫をもって、各種取扱を行う過程において、住民の理解と協力が得られるようになった。
- ・交流イベントは、住民の意見やニーズを随時、聞きながら企画・開催しているため、一人ひとりが自発的に楽しみながら参加しています。

- ・日中の仮設住宅には高齢者が多く、談話室の利用は男性に比べて、女性が圧倒的に多いことから、必然的に談話室では女性たちが手作り品の制作など、好きな活動をのびのびと行っている。今年に入り一人暮らしの男性が談話室での催しに参画する場面も増えてきており、冬休み期間中から子どもの利用も増えました。
- ・2012年以降は、仮設住宅周辺の自治会にも声をかけ、互いのイベントや集会所などで交流する機会を増やしました。

☆IRP's Build Back Better ポイント☆

- ・ 様々なイベントの開催をきっかけとして、また、そのきっかけづくりが若手の女性リーダーだったからこそ談話室の利用も盛んになり、老若男女の住民と一緒に地域コミュニティを形成しました。
- ・ 食事会の場で、自治会長に「本当はさびしい」という本音を語った人がいました。「初回は参加しなかったけれど、皆が楽しいと言っていたので参加してみた」と言って参加する人もおり、女性リーダーによる自治会活動を通じて、仮設住宅住民の親睦が深まりました。

☆参照☆

復興庁「男女共同参画の視点からの復興～参考事例集～（第8版）[平成27年3月末時点]」

http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-16/150323_danjo_jirei.pdf

